

山崎英一

佐藤三郎

(佐)

近畿支那部總會

支那部總會

善の

Kinki Shiba Taikai.

15th. Apr.

Shiba

M. Ogawa

### 海外通信

### 雜報

近畿支那部總會寄書

◎佐藤利一先生(滯英)より本部なる會友へ!

此度二週間の豫定にて白耳義和團を見た後當地に参りました二三日後に巴里に歸へります其後伊佛兩國の養蠶地を視察した後五月廿三日佛國發アメリカへ渡り六月廿日桑港發七月六日横濱着て歸朝します至つて元氣で居りますから乍他事御安心下さい。

◎小見益男氏(滯支)より本部なる會友へ!

前略、来てみるとなるほど支那は廣い、そして古い何もかもこれまで俺たちのもつてゐた指尺でははかれない、頭の中の指尺の改造はなか／＼手間がかゝるだらう、第一に言葉がとて／＼手がかからない、英語とか獨逸語とかなら少しづつゝきゝかぢつてゐるが、この言葉は麻雀でおぼえた一―九までの發音さへぼさんど役をしない。

まあ氣長に放つて置くときめた、蠶には温度が高いので桑を何べんもやつてゐるがよく大きくなる、第

一桑が良い、この邊—といつても日本にはおそろくないだらう  
廣さで桑園がある、皆高刈又は喬木でよく茂つてゐる、手入も  
すいぶんよく行きとどいてゐる、信州の風返なんてのは草だと  
チャールス・チニーが言つたさうだがこゝのは桑の樹だ。

支那の沿岸を去る二十哩程のところでおびたゞしい数の漁船に  
逢つた、舟、帆の形、色その上の人、俺は支那に來たと思つ  
た。

乗つた上海丸はちつとはゆれてみてくれといひ度い位靜かな航  
海をつゞけて長江の流し出す黃褐色の水の中に入つた、然し何  
時間も陸地は見えない。

水平線に低く柳の岸が見え出してどこ迄も同じやうにつゞいた  
狭い支流の何とかいふ川に入ると、よくもこんな大きな舟を通  
す深さがあると驚かされる。

上海はやつぱり支那だつた。

いくらでも金の費えさうな街である、鎮江へ行く南京鐵道の沿  
線はきれいだ、丁度遊覽のシーズンなのでことに蘇州はとて  
にぎやかであつた。

鎮江の依瀬君の居た蠶業試驗場はあの邊唯一の丘の上に城のや  
うに建つて居る、嚴重な竹の矢來をめぐらして實彈を持つた十  
人の兵士が警固してゐる、事務室の二階は銃眼をそなへた見張  
所となつてゐる、形も砦そのまゝだ、しかし中は實に氣樂ない  
、所だ、こゝの夕ぐれ、朝もやは何ともいへない氣持だつた、  
新らしく植えた桑がとてつもなく大きくのびてゐた、平均一反  
一圓の肥料で足りると云ふ。

上海から杭州への沿線は少しく日本に似てゐる、桑と竹やぶや  
民家が多いので少しせ、コマシイ感じがする—勿論支那として  
はだ。

西湖をとりまく周圍、また格別古い支那である、たゞ杭州の街  
の湖岸は少し新らしくされてゐるが、丘の上の古塔、寺—とも  
かく繪でよく見た支那風俗は昔の支那とばかり思つたが、今も  
同じものを隨所に見られるのは意外だつた。

杭州は美人が多いときいたが街を歩く婦人はそんなに美しい  
のを見なかつた、きれいなのは外なぞ出歩かないといふことだ、  
然しこの邊の女の皮膚は細かできれいだ、一體に支那の娘の斷  
髮はその服裝とピッタリ合つて顔を非常にきれいに見せる、少  
し年とつた女—さしまでは男のオールバック（俺の鬘なぞより  
短かい）と同じなのがよくある、どれもいゝ。

支那のゆつたりした風景と、人を見て日本のことを忘れかけて  
ゐる、といふよりはいろ／＼考へだしたりなんかすることがお  
つくりになつた、そのうちにまた戀しくなる時も來るのだらう  
がね。

支那に來て俺が繪かきだつたら、詩人だつたら、なぞと考へさ  
せられる、でなければ氣まゝに遊べる身だつたらなぞとも、そ  
してともかくもまあ何でもいゝやに落ちつく。

（此の手紙を載せたら、小見君に叱られるかも知れない、多  
謝）

四月十八日

## よせがき

本年度に這入つてから、支部の總會は各所に開かれ、本部からは大概會長と理事が出席した。

上記の「よせがき」は近畿支部總會が京都市鴨川池畔の一料亭に開かれた席上、宴酣にして興味津々たる折、各自雄渾遑筆を振つて物された紀念の「よせがき」である。這個の情景、髣髴として眼に通るものがある。

當日東海支部より芝荒雄君、東京より平澤勝君が出席され非常に盛會であつた。

## 同窓生祝融の災

本校第九回養蠶科卒業生安仲勳氏は卒業後郷里福岡縣筑上郡黒土村に於て、蠶種製造業に従事せられ、刻苦精勵の結果、家運隆々として大いに進展せられつゝあつたが、たま／＼不幸祝融氏の見舞ふ所となつて、全家悉く烏有に歸して了つた。

實に同情に堪えない次第である。

氏の畏友、稻葉、大江二氏は其の窮狀を座視するにしのびず、蹶然樹つて左記の如き檄を飛ばし、知友各位の同情に懇へて來た。此際本會としても大いに各位の御同情を望む次第である。拜啓時下新緑の候貴堂益々御清福の段奉賀候陳者野生等未だ一面識の榮も得ざる者に候へ共貴下と御同窓の安仲勳氏とは同郷にして最も親しき間柄に御座候此度は誠に唐突乍ら下記の如き次第にて矢禮をも顧みず書狀差上げ得貴意申候

御承知の如く勳氏は上田蠶絲專門學校卒業後父君と共に蠶種製造業に従事し幾許もなく父君の長逝に遭ひ其後獨力奮闘産業報國の大精神を確立し努力する事數年其の經營宜しきに適ひ年々事業を擴張して近時漸く基礎定まり其の信用絶大にして昨今種紙製造高は壹万枚を突破し將に縣下有數の大蠶種製造家として將來を期待され申し候是一面貴殿等同窓諸氏の多大なる御後援の賜と拜察勳氏の爲誠に慶賀に不堪存じ候然るに天未だ彼に組ぜず去る四月廿一日夜突然大火災に遭遇し蠶室蠶具は勿論主屋をも全焼し家財道具悉烏有に歸し殘るは僅かに二三点の衣類の外無之其の損害激甚にして殆んど致命的と申すべく誠に生等同情悲嘆に不堪候若それ彼にして再び起つ能はずんば可惜有爲の士を草潤の間に葬るは勿論本地方蠶業界の受くる影響極めて甚大なるべく彼を援助し之を起たしむるは我等同窓の義務なることを思ひ茲に卑蘗を呈し友情溢るゝ同窓諸兄の御同情にすがり御援助を得て彼が斯業經營上必要なる蠶具購入費の一端をも補ひ何卒して父祖四十年來の業を継続致させ再び彼を光明の世界に活躍致さするを得ば誠に幸甚の至りに候何卒此段御諒察下され御同情賜はり度伏して及懇願候 草々頓首

下度

追つて御見舞金御寄贈下さる方は左記本人宛へ直接御送附被

福岡縣筑上郡黒土村大字久路土 安 仲 勳

稻 葉 茂 三 郎

五月十日 發起者

大 江 清

## 樋口君へ贈れる本會よりの弔辭

樋口君の靈前へ、供へられた弔辭は十有一の多き上つた。孰れも言々みな悲痛人の肺腑を抉り、鬼神をして泣かしむるの概があつた。常に此種の事象に直面して、餘りに屢々慣らされて居る導師ごさへも、流涕滂沱、僧衣の袖を拭ひもあへず、縋々として立上る香煙も、嗽きに濕りて、とかくはたゆたいがちであつた。

本會から送つた弔辭は左の如きものであつた。

嗚呼悲哉。光明は消え失せぬ。偉大なる人物樋口琢磨君は逝けり。聲を限りに呼び叫べども答なし。君は遂に逝きたるなり。嗚呼悲哉。悔めども詮なければこそなほ悔まるれ。惜しめども惜しめども盡きざればこそなほ惜しまるれ。

大正七年君上田蠶絲専門學校を卒業せらるゝや直に母校養蠶部に職を奉せられ銳意眞理の探究と子弟の教養に盡瘁せらるゝと共に同窓會幹事として渾身の努力を傾注せらるゝこと十年一日の如し。昭和二年四月長野縣蠶業試験場病理部の新設せらるるや特に選ばれて其主任となる。君が該博なる知識君が透徹せる頭腦は實に暗夜の星の如く光輝を發したり。

全年同窓會組織の變更に伴うて君新たに役員に推されて監事たり。君が崇高なる人格卓越せる識見は其溫容、其英姿と相俟つて同窓九百畏仰の標的たり。誠に天は全く智と仁と勇と君に表象して餘す所なきを思はしむ。かくして君は我等の力なりき。君は我等の命なりき。籍を我會に置く者君を追慕せ

(100)

ざる無く一度君が溫容に接するもの等しく君が人格に感化を受けざるなし。語に曰く「桃香物云はず下自ら蹊を成す」と我等は君に於て始めて此事を見るなり。

我等君に千年の壽を求むる事切に君に万年の命を祈るや極めて厚かりき。何ぞ圖らん本日茲に幽明境を異にして君に接せんとは、君が悲報一度傳はるや東西等しく愕然として驚き慙然として痛み呆然自失爲すあるを知らざるなり。

君家庭の人として亦玲瓏玉の如し。其の御老父母に孝養の厚き其御令室を始めとして令嬢令息に愛撫のこまやかなる他に類を見ざるところなり。公人としての樋口君私人としての樋口君。君は彗星の如く來り彗星の如く世を去られたり。嗚呼君を巡る同窓が斯と天に嘯じ地に哭するも君は去て再び來らざるなり。我等悲しまざるを得んや。我等悲しまざるを得んや。さばれ君よ。我等同窓不肖なりと雖も一致團結事に従はば又何をか恐れん。必ず君が意を意とし君が志を志とし所志の貫徹に向つて勇往邁進せん事を茲に誓ふものなり。君が人格は永遠に星辰の如く炳として我等を照らし君が足跡は大川の流にも似て我等が進路を教へてやむ時なし。肉體の君は逝きぬ。さばれ精神の君は不朽に我等の内に生く。君幸に安ぜられん事を。茲に上田蠶絲専門學校同窓生一同謹みて君が英靈を祭る。

在天の靈希くは來り餐げよ。

昭和三年四月廿三日 上田蠶絲専門學校同窓生總代  
松村 季 美